長谷川式大型検土杖

取扱説明書

ダイトウ テクノグリーン株式会社

はじめに

　このたびは“長谷川式大型検土杖”をお買いあげ頂き、誠にありがとうございます。
　ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、本書はお読みになったあとも大切に保管してください。
　もしも紛失した場合は弊社販売店に請求して下さい。なお、警告ラベルがはがれたり汚れたりして読めなくなった場合も、弊社販売店へ請求して下さい。

安全上のご注意

　ご使用の前に安全上のご注意をよくお読みの上、正しくお使いください。またお使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

　製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に阻止するために、重要な内容を記載しています。

表示と意味とは次のようになっています。

⚠ 警告

　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が損害を負う可能性、または物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

落錘で指を挟まぬよう注意して下さい。

サンプラーの先端は人に向けないで下さい。

検土杖を扱うときには周囲の安全を確認して下さい。

持ち運び時に落錘が動き、思わぬケガをすることがありますので、
持ち運び時には必ず固定ピンを入れてください。

⚠ 注意

接合部は、必ずワッシャーを入れてしっかり締めてください。緩んでいると破損する恐れがあります。

２～３回落錘を落下させても貫入出来ない場合は、サンプラーが破損する恐れがありますので中止して、少しずらした地点で再度サンプリングを行ってください。

サンプラーを引き抜くときには、必ず時計回り方向に回して下さい。逆方向に回すと接続部のネジが緩み、サンプラーが土中から回収できなくなる恐れがあります。

サンプラーを引き抜くときに時計回りに回しても土中でレキ等がサンプラーに挟まっている場合、回そうとしても回転せず反発して戻ろうとします。（単に硬い地盤でのサンプラーの回転とは感触が異なります。）
その時無理に回転させますとサンプラーがねじれる場合がありますので、回転する所まで垂直に引き上げて下さい。

使用の際は、軍手等を着用するなどして、手を保護して下さい。

長谷川式大型検土杖

1 本器使用時における土壌調査の特長

1．人力の押し下げで土に貫入させる従来の検土杖とは異なり、落錘を落下運動させることによって、硬い地盤でも容易に貫入させることが出来ます。

2．本体は三分割できるので、持ち運びに便利です。

3．長さ 35 ㎝のサンプラーによって、深さ１m までの土壌サンプルが３回で採取することが可能です。

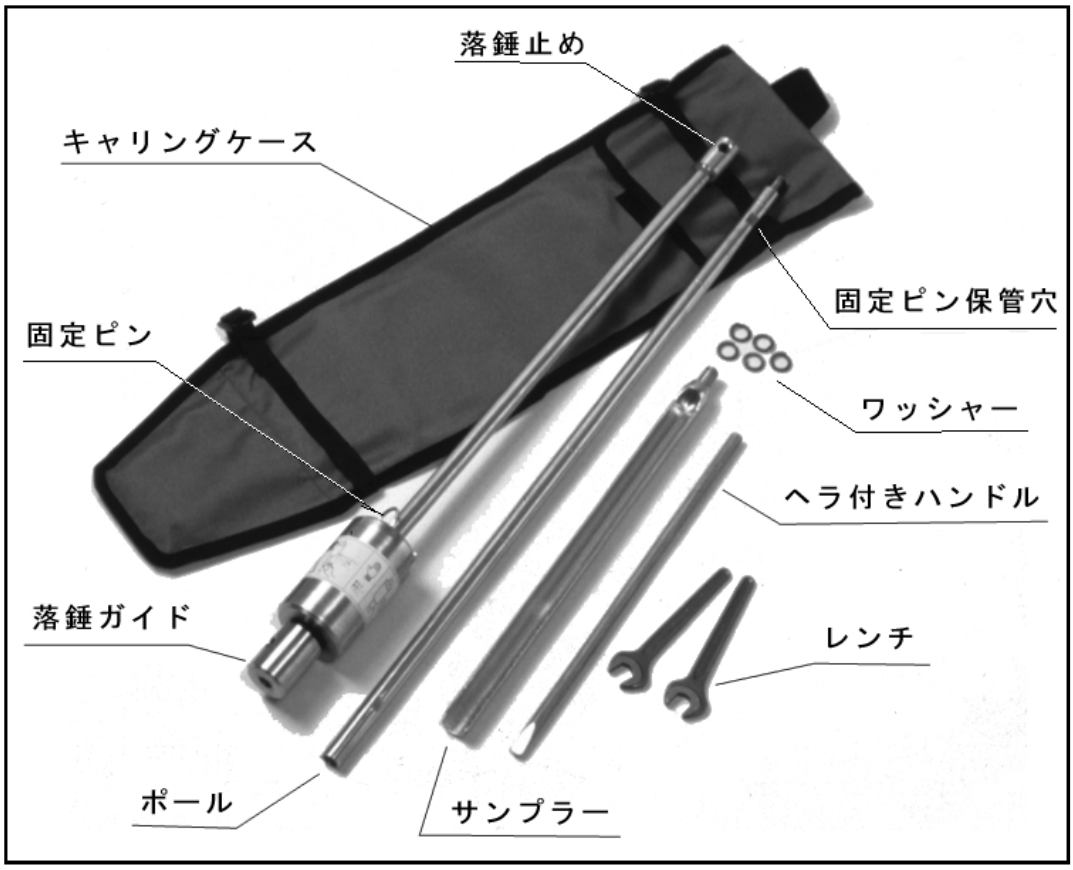
4．サンプラー部分が大きいので、分析用試料も採取することが出来ます。

2 本器の仕様

全　　長：167 ㎝
材　　質：採土部　特殊鋼
　　その他　ステンレス鋼
採土部寸法：φ17 ㎜×35 ㎝
落 錘 重 量：2 kg

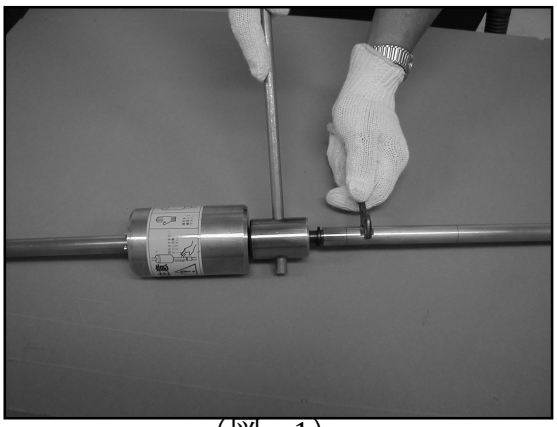
●キャリングケース収納時
寸　　法：70×17×5cm
　　（3 分割収納時）
重　　量：5.4kg

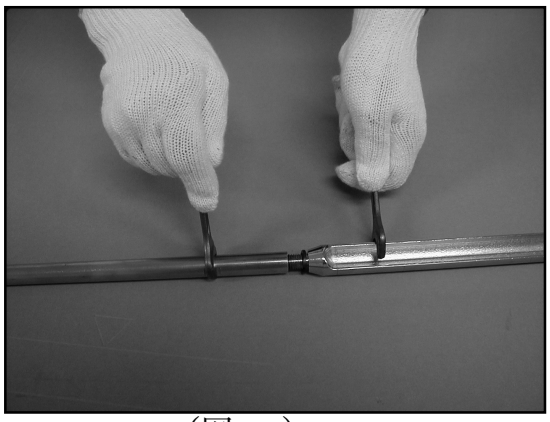
3 本器の各部の名称


落錘止め
キャリングケース
固定ピン保管穴
固定ピン
ワッシャー
ヘラ付きハンドル
落錘ガイド
レンチ
ポール
サンプラー

4 組立方法

1． ポールを落錘ガイドのノッキングヘッド部にねじ込み（必ずワッシャーを入れる）レンチでよく締めてください。（図－1）
　ねじ込みの際、ネジ部についたゴミをよく落として下さい。
2． サンプラーをポールにねじ込み（必ずワッシャーを入れる）、よく締めてください。（図－2）


（図－1）


（図－2）

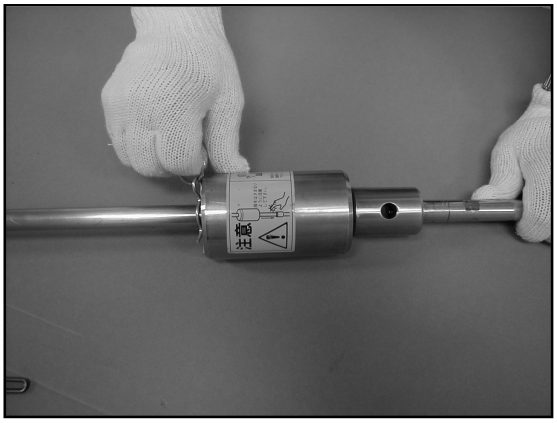
3． 以上で組立は終わりです。
　接合部分がよく締まっているか再度確認してから使用してください。

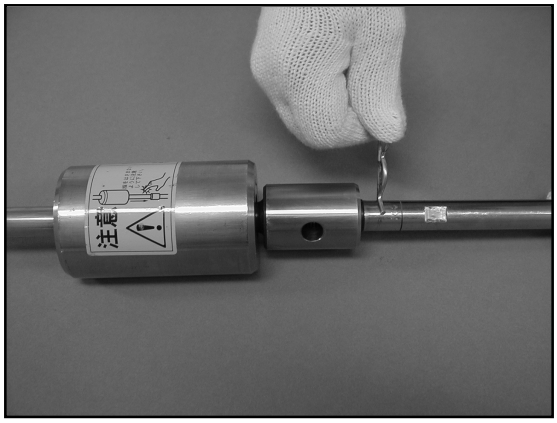
⚠ 注意

付属のワッシャーを入れないと、ゆるみの原因となり、つなぎの部分で折れる可能性が高くなります。ねじ込みの際は必ずワッシャーを入れて、よく締めてください。

5 使用方法

1． 固定ピンをはずし、なくさないように保管穴に保管して下さい。





2． 調査（サンプリング）地点で、下図の様に落錘止めに手をそえて本体を出来るだけ垂直に保ち、落錘を落下させることにより、サンプラーを貫入させます。（土壌が硬い場合は軽く叩くような形で落下させると良いです。）

⚠ 警告

落錘とノッキングヘッドの間に指を挟まない様気をつけて下さい。

落錘がノッキングヘッドへ落下したのを確認するまで、落錘に手を添えないで下さい。

３．目的深さまでサンプリング出来ます。例えば同一坑で第一回目は 35 ㎝、第二回目は 70 ㎝、第三回目は 100 ㎝まで貫入させたら、ヘラ付きハンドルをノッキングヘッド穴、または落錘止め穴に挿入し、本体を時計回り方向（逆に回すと接続部のネジがゆるみます）に１～２回まわしてから、上に引き上げます（本体を回しながら上げると引き抜きやすくなります）。

４． サンプリング部に採取された土壌の表面をヘラ付きハンドルで削り、状態を野帳などに記入します（野帳記入例参照）。必要に応じてヘラ付きハンドルで土壌を採取し、ビニール袋などに入れて分析試料とします。

５． サンプラー内をヘラ付きハンドルで清掃し、次の深さまでのサンプリングに移ります。

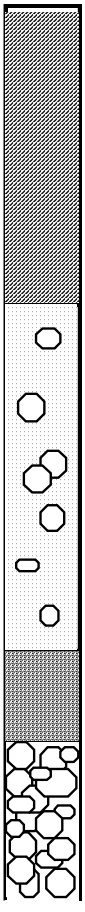
６． 同一坑で第二回以降のサンプリングを行います。
例えば 70 ㎝, 100 ㎝と、３回で 100 ㎝までのサンプリングが出来ます。

⚠ 警告

持ち運び時に落錘が動き、思わぬケガをすることがありますので、持ち運び時には必ず固定ピンを入れて下さい。

6 野帳記入参考事例

	その他	水湿	土色	土性	層位
0					
10	黒土	潤	黒	L	Ⅰ
20					
30					
40					
50	礫・砂混じり	潤	褐	HC	Ⅱ
60					
70					
80	山砂	潤	褐	S	Ⅲ
90					
100	礫				Ⅳ
(cm)					



その他ご不明な点は下記販売元までお問い合わせ下さい。

Ver.3.0

製造元
大島造園土木(株)緑化技術研究所

販売元
ダイトウ テクノグリーン株式会社
〒194-0013 **東京都町田市原町田**1**丁目**2**番**3**号**
TEL:042-721-1703　FAX:042-721-0944